

築山社協だより

第56号

令和元年9月1日

築山地区社会福祉協議会

発行人 加藤 俊悦

(題字：茂林 憲子)

校舎3階の教室に車が…



宮城県気仙沼市に本年3月、「東日本大震災遺構・伝承館」がオープンしました。気仙沼湾に近い向洋高校旧校舎の無残な姿を残すことで大震災を風化させまい、とするものです。津波は鉄筋コンクリート4階建て校舎を破壊。10層を超える3階の教室には窓を破って車が突っ込みました。災害への備え、忘れてはならないことです。

慶祝

おめでとうございます
心より祝福いたします

- ◎瑞宝単光章（春の叙勲…消防功労）
藤原 賢一様（楢山川口境）
- ◎平成30年度秋田市緑化功労者表彰
佐藤美智子様（南通宮田）
- ◎秋田市民憲章推進・住民活動賞
妹尾 弘様（楢山南新町）
- ◎秋田県児童館等連絡協議会表彰
岡田 弘子様（南通みその町）
- ◎秋田市社会福祉（民生委員・児童委員）表彰
佐藤美智子様（南通宮田）

築山地区敬老会のお知らせ

恒例の当地区社協主催の令和元年度「築山地区敬老会」を次の通り開催します。
◎対象の方は、本年度末で満75歳以上（昭和20年4月1日以前にお生まれ）の皆様です。各町内会長を介してご案内致しました。
お誘い合わせのうえ、ぜひご出席ください。

日時 9月17日（火）午前11時
場所 楢山コミュニティセンター

地区へのご篤志

- ご香典返し
2万円（亡父 鈴木雄太郎さん）
楢山太田町 川邊 智子様
- ご芳志
5千円
南通みその町 高桑 博様
1万円
楢山南中町 加藤 俊悦様

赤い羽根共同募金

皆様のご協力をお願いします

本年も10月1日から「赤い羽根共同募金運動」が始まります。昨年同様、地区の皆様から温かいご支援を賜りまして有難うございました。皆様からご協力いただいた募金は秋田市共同募金委員会（以下「市共募」）に全額送金され、県市の社会福祉活動の助成等のほか、各地区社協にも配分されるため、地域福祉を高めるうえで極めて重要な社会事業費となります。秋田市では世帯数に応じて按分して各地区の目標額を決めています。また、各地区社協でも事業の推進に必要な目標額を設定して「市共募」に提出しています。募金の実績額が目標額合計を上回ると地区への配分金が加算されます。本地区は皆様のご協力により昨年目標額を超えることができました。「歳末助け合い配分原資」と合わせて、地区の福祉事業の推進や諸団体への助成などに充てることが出来ます。昭和22年に、「社会事業共同募金中央委員会」が発足し、育児院・養老院・

会務報告

平成31年3月～令和元年8月

- 3月1日 築山社協だより第55号を発行し、民生委員、町内会長を介して全世帯に配布
- 3月11日 市共募実績報告会・市社協事務担当者研修会に会長と鈴木副会長が出席
- 3月19日 市社協理事会に会長出席
- 4月2日 市共同募金委員会運営委員会に会長が出席
- 4月4日 平成30年度会計監査実施
- 4月11日 地区社協役員会を開催し、定期総会の提出議案を審議
- 4月27日 定期総会を楢山コミセンで開催し、平成30年度事業報告・同決算、2019年度事業計画・予算、役員改選について審議承認
- 5月13日 市社協連絡会幹事会に会長が出席
- 5月17日 市社協監事会に会長出席
- 5月22日 カラオケ大会開催
- 5月23日 市社協理事会に会長出席
- 5月28日 市共募運営委員会に会長が出席
- 6月6日 「築山社協だより編集委員会」を楢山コミセンで開催
- 6月24・25日 市社協連絡会総会及

地域福祉の今とこれから



築山地区社会福祉協議会
会長 加藤 俊悦

新元号に改元された今、人口減少や少子高齢化の加速化が地域コミュニティに大きな課題を提起しています。築山地区の世帯数を社会福祉費（社協会費）の納入状況で見ると、過去10年間で約170世帯減となりました。核家族化の進行や親の死別等により、家屋や土地を手放すケースが増えた反面、新たな転入家庭もあり、子供の数が増えた町内会もあります。これからの地域福祉
秋田市社会福祉協議会が「秋田市地域福祉アクションプラン2019」を策定し、新たな福祉理念に基づく活動が開始しています。今号では、市社協常務理事兼事務局長の田口悟様から特別寄稿をお願い致しましたので是非お読みいただきたいと存じます。（第4面参照）地域におけるお互いが支え合う機能、を高めるところに改訂の重点が置かれています。
東日本大震災の被災地視察から
本年6月下旬、秋田市社協連絡会主催の研修会で、「津波死ゼロのまちづくり」を目指す気仙沼市の被災地「東日本大震災遺構・伝承館（気仙沼向洋高校跡）」を視察してきました。高さ10メートル

を超える津波が校舎4階まで押し寄せたものの、迅速で的確な指示と行動により、避難者全員が難を逃れました。当時の爪跡がそのまま残された被災現場を目の当たりにした大きな衝撃を受けました。今年度の築山地区防災研修会
本地区では7月28日に、市防災安全対策課職員の見学による「防災研修会」を開催しました。（詳細は本紙次号に掲載予定です）
また、本年10月23日（水）、楢山コミセンを会場に、日本赤十字秋田県支部の職員による「避難所で役立つ知識と技術」と題する研修会を開催します。日赤が作成した「災害時高齢者生活支援講習ハンドブック」をもとに、避難所生活により、体調が悪化したり生活不活発病が生じやすい現状を踏まえた予防策や知識等について、実技を交えながら学ぶ研修を計画しています。後日、各町内会の班回覧方式で全世帯にご案内します。ご参加いただければ幸いです。
築山社協では、これからも関係諸団体からの知恵をお借りしながら、事業の充実を目指します。皆様からのご理解とご協力を何卒よろしくお願いいたします。

◆編集後記◆

太平洋戦争は、昭和20年に終戦したが、婦人参政権は、天から降るようには与えられなかった。民主化の方向は間違いないが、このこと自体はラッキーといふべきか。多年にわたって抑えられた女性の力を発揮するのには絶好のものになった。

その普選第一回選挙は、昭和21年4月10日、秋田県を一区とする二名連記制で行われた。全国では、多くの女性候補が輩出して、本県の和崎ハル史（5面参照）を含め39人が婦人代議士として当選、国会の檯舞台に初登場した。編集子は当時、国民学校6年生であったが、新聞報道等で知り、新しい時代を実感した。（北條 晃）

編集委員

- 北條 晃
- 加藤 俊悦
- 鈴木 夏代
- 京屋 均

築山地区社会福祉協議会の 会計報告

平成30年度決算及び令和元年度予算

収 入

単位：円

科 目	30年度決算額	元年度予算額	予算に対する内容説明
1 会 費	1,118,160	1,090,800	360円×3,030世帯
2 共同募金一般配分金	771,882	763,694	平成30年度地区共同募金実績による配分
3 友愛訪問事業交付金	141,818	141,818	見守りネットワーク事業
4 助 成 金	1,343,178	1,283,518	地区福祉活動 484,800、健康支援他 798,718
5 補 助 金	1,498,000	1,498,000	敬老会(市補助)
6 寄 付 金	105,000	100,000	
7 諸 収 入	2,274	406	普通預金及び定期預金利息
8 繰 越 金	1,576,182	1,645,764	平成30年度からの繰越
合 計	6,556,494	6,524,000	

支 出

単位：円

科 目	30年度決算額	元年度予算額	予算に対する内容説明
1 会 議 費	85,385	150,000	総会、役員会、監査等
2 事 務 費	96,462	200,000	
3 老 人 福 祉 費	1,663,415	2,090,000	敬老会 2,000,000 3 老人クラブへ助成 90,000
4 児 童 福 祉 費	182,400	190,000	地区内4 保育園 80,000 築山きりんクラブ 20,000 築山小学校児童育成 40,000 児童センター運営助成 50,000
5 災 害 見 舞 金	10,000	100,000	
6 研 修 費	169,542	500,000	市社協、Bブロック研修、防災研修他
7 助 成 金	170,000	170,000	築山地区民生児童委員協議会 40,000 築山学区町内会長連絡協議会 40,000 築山地区自主防災組織協議会 35,000 楯山コミュニティセンター 25,000 築山地区体育協会 30,000
8 広 報 費	402,200	450,000	築山社協だよりの発行(年2回)
9 慶 弔 費	0	50,000	
10 特 別 事 業 費	964,166	1,000,000	地域交流行事 500,000 高齢者への激励訪問 150,000 幼児と高齢者のふれあい行事 50,000 軽スポーツレクリエーション大会他 100,000 グラウンドゴルフ、カーリング大会 150,000 カラオケ大会 50,000
11 市 社 協 納 入 金	1,152,160	1,130,000	全戸会員会費 1,090,800 特別会費他 39,200
12 予 備 費	15,000	494,000	
合 計	4,910,730	6,524,000	

※ 上記の外に、基金として4,000,000円の定期預金(北都銀行楯山支店)

顔の見える絆づくりを重点に

2019年度 地区社協定期総会開く



加藤俊悦会長のあいさつ概要

元号が替わるタイミングと重なり、市社協が新たな「秋田市地域福祉アクションプラン2019」を策定した。その趣旨を踏まえ、当地区各組織の連携を更に強化していきたい。

年々、地域が抱える福祉課題は多岐にわたり複雑化しており、様々な課題の解決に向けては地域住民の力だけでは厳しい現状もある。特に「防災・減災」は、専門的な視点からの情報提供や助言をいただくことも重要であり、行政や関係機関とのネットワークの構築と相互連携も今後重視していきたい。

2019年度(平成31年度・令和元年度)の築山地区社会福祉協議会定期総会は、4月27日午後2時から楯山コミュニティセンターで開催。役員や町内会長、福祉協力員、民生児童委員で構成する評議員ら63名が出席し、事業計画や予算などを審議しました。

はじめに加藤俊悦会長が挨拶(別稿に要旨)し、「地域が抱える福祉課題の解決に向けては、民の力だけでは厳しい現状にあります。特に防災・減災は、行政や関係機関との連携を重視していきたい」などと述べました。当日は、来賓として築山小学校・大

友智加司校長、楯山交番・齋藤祥枝所長がご参加いただきました。議事に入り、議長は京屋均副会長が担当、加藤会長から30年度事業・決算報告、さらに2019年度の事業計画・予算の議案説明があり、それぞれ原案通り(会計報告は7面に)了承されました。

議事終了後、日本赤十字社秋田市地区築山分会長・妹尾弘氏から「2019年度日赤会員増強運動」への協力依頼もありました。

2019年度 事業計画の重点目標

- 決定した2019年度の事業計画は、「顔の見える絆づくり」の下に、住民が積極的かつ主体的に福祉活動へ参画できるような事業を展開し、地域の福祉力を高めることを方針に、7つの重点目標を掲げました。
- 1 高齢者の健康づくり、生きがいづくりのための活動等を展開します。
 - 2 地区敬老会を実施、老人クラブ助成など老人福祉の充実を図ります。
 - 3 築山児童センター、きりんクラブ、四保育園などへ助成します。
 - 4 災害時避難支援プランの推進、防災・減災の研修を充実します。
 - 5 地区民協などに助成し活発な活動を期待します。
 - 6 築山社協だよりを年2回発行し、全世帯に配布します。
 - 7 軽スポーツ、カラオケ大会など地域交流を特別事業で展開します。

築山地区社協役員名簿(順不同)

平成31年4月27日現在 選任・委嘱

- ◇ 会長 加藤 俊悦 (再任・楯山南中町)
- ◇ 副会長 京屋 均 (再任・楯山本町)
- ◇ 理事 鈴木 夏代 (同・楯山寺小路)
- 工藤 裕紀 (新任・楯山本町)
- 根田 文子 (同・楯山川口境)
- ◇ 監事 三浦 隆一 (再任・楯山川口境)
- 佐藤 秀一 (同・楯山登町)
- ◇ 顧問(会長委嘱) 高桑 博 (南通みその町)
- 樋渡 久孝 (楯山太田町)
- ◇ 理事 23名(会長委嘱) 妹尾 克利 (同・楯山登町)
- 北條 昭晃 (同・楯山登町)
- 松田 精一 (同・楯山登町)
- 川井 哲郎 (同・楯山登町)
- 佐藤 安彦 (同・楯山登町)
- 高橋 誠志 (同・楯山登町)
- 長谷川 誠志 (同・楯山登町)
- 菊地 登喜子 (同・楯山登町)
- 佐藤 美智子 (同・楯山登町)
- 福井 祐修 (同・楯山登町)
- 狩野 祐一 (同・楯山登町)
- 新城 正弘 (同・楯山登町)
- ◇ 福祉協力員 15名(会長委嘱・理事兼任者は除く) 齊藤 直美 (同・楯山登町)
- 加賀 文秋 (同・楯山登町)
- 樋渡 シゲ子 (同・楯山登町)
- 高橋 多紀子 (同・楯山登町)
- 中田 明子 (同・楯山登町)
- 鈴木 博子 (同・楯山登町)
- 越後 節子 (同・楯山登町)
- 土岐 ひろ子 (同・楯山登町)
- ◇ 当社は民生児童委員、主任児童委員、町内会長をはじめ、福祉関係諸団体と連携し運営に努めています。

第2回は11月10日(日)に開きます。連携団体では、「こんなことをやりたい」「あんなことを楽しみたい」といった要望が、今後の活動のカギと考えています。最近、他人と話をすることが少なくなりました。大歓迎です。まずはどんなサロンなのか、のぞいてみませんか。問い合わせは榎山コミセン(☎0834・9844)へ。

高年齢者よりも、ともすれば孤立しがちな一人暮らし、あるいは日中一人きりの方々が、集い、交流することで、気持ちが明るく元気になってもらうという狙いがあります。他のサロンと大きく違うところは、築山地区だけでなく、中通地区の方々と一緒に集い楽しむ、というものです。町内会の枠も越えての交流になります。さらに参加者の年齢制限もありません。

両地区の社協、民児協、町内会、中通地域包括支援センター、榎山コミセンの6団体の連携です。年間4回程度の開催を計画しており、その都度テーマを変えながら、交流の輪が広がるように工夫を重ねることにしています。

「サロン・ならこみ」が始まる。サロン活動に新たな試みが始まりました。榎山地区コミュニティセンターを会場に、「サロン・ならこみ」が誕生。8月25日に第1回の集いが開かれました。

仲間づくり！生きがいづくり！健康づくり！ いきいき地域サロン

サロンの名称	例会日時	開催場所	代表者・連絡先TEL
グラウンドゴルフ友の会	毎週(火)・(金) 午前9:30	榎山公園	佐川喜代四
	毎週(木) 午後1:00	榎山公園	
	毎月第2・4(土) 午前9:30	築山小グラウンド	
榎山合唱クラブ	毎月第2・4(木) 午前10:00	榎山コミセン	妹尾 克利
フローカーリング会	毎月第3(土)・翌週(月) 午前9:30	榎山コミセン	佐藤 敏勝
囲碁クラブ	毎週(土) 午後1:00	榎山コミセン	大島 洋三
太田町ほほえみサロン	毎月第2・4(月) 午前10:00	太田町町内会館	福井 陽子

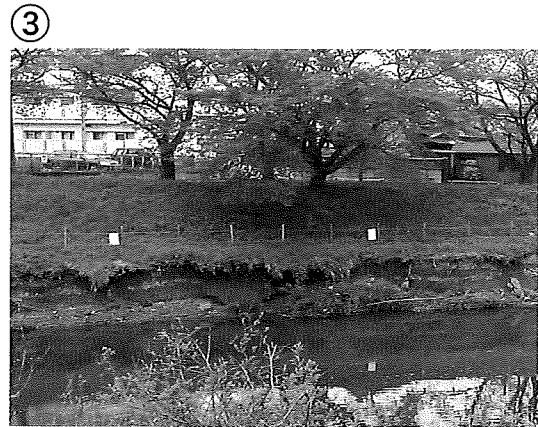
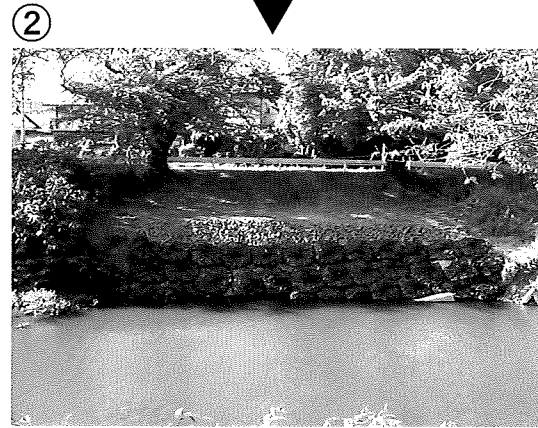
令和元年5月24日現在

築山学区町内会長連絡協議会 会長：佐藤 秀一 副会長：田口 学、岡部 かず子					
町内会名	会長名	町内会名	会長名	町内会名	会長名
宮田	松田 昭夫	榎山虎ノ口新町	五十嵐真人	愛宕下東丁	田中 繁
JR宮田自治会北	佐藤 康浩	南新町	長門 永興	愛宕下西丁親交会	佐藤 義孝
イーストハイム宮田住宅	石河 宅也	森林管理局第7パート	岩崎 透	愛宕下南丁	松淵 隆
築地北町	鈴木 正志	太平	林崎 勝	愛宕下北丁	佐藤 直行
築地東上町	皆川 千景	牛島橋通町	伊勢谷順一	愛宕下中丁	軽部 俊一
築地窪町	伊藤 勝美	牛島橋通り南部	松村 隆志	城南町	加藤 直哉
築地上本町	伊勢 定正	榎山共和町	菅原 文夫	金照寺山	藤原 秀雄
築地下本町	渡邊 博之	榎山下浜町	藤原 敏弘	寺小路北	内藤 眞吾
築地中町	佐瀬 道則	川口境西部	進藤 光正	寺小路南	三浦 五郎
築地西町	佐々木貴子	登町南部	高橋 健	城南みなみ	堀井 満
築地睦会	加賀屋 恵	川口境東部	柴田 俊雄	榎山石塚谷地	打矢 春信
榎山本新町上丁	赤平 勉	若草団地	木村 正美	榎山	伊藤 達男
榎山本新町下丁	佐藤 翠	入川橋	佐藤 喜子	榎山石塚町	金持 巽
榎山上本町	中川 利宗	十軒町	進藤 幸男	榎山石塚新町	堀井 勇
榎山本横町	津谷由紀子	米沢町	瀧澤 文雄	太田町山水会	土岐 文雄
内木町	小笹 清孝	登町東部	相場 和志	太田町連合町内会	福井 陽子
榎山本町下丁	佐藤 茂徳	登町中央部平和会	田口 学	太田町本町	佐藤 敏勝
榎山古川新町	保坂 金雄	登町西部	佐藤 秀一	太田町東部	今 豊
百石橋通り	波多野達雄	亀ノ町栄町	岡部かず子	太田町睦会	土佐 央明
榎取町親睦会	安藤 秀樹	餌刺町	高橋 和博	太田町栄町	甘野 朋子
末無町	工藤 裕紀	九郎兵衛殿町	新城 正弘	太田町南町	佐藤 昌昭
医王院前町	芳賀 克巳	笹町	福田 洋介	太田町新町	阿部 惇
榎山広小路	高橋 綾子	三枚橋町	佐々木重雄	太田町旭町	佐藤 正

写真で見えるまちの動き



日頃の活動をもっと知ってもらおうと5月12日の「民生委員・児童委員の日」に、ドジャース前で委員7名が、買い物客らにチラシなど配り、PRしました。



太平川は昨年、一昨年の豪雨で護岸が崩れたり削られたりして危険な状態でした。管理する県は5月までに改修工事を行いました。▽百石橋そば(写真①、②)▽若草団地付近(写真③、④)です。今後も太平川流域には増水による危険への注意は欠かせない状況です。



築山地区児童の登下校や生活の見守りを続けている安全ボランティアへの感謝集会④が5月30日、築山小学校で開かれ、顔合わせや情報交換が行われました。引き続き低学年児童は「いかのおすし」を合言葉にした防犯教室⑤で不審者への対応を学びました。



地域活動



令和初のカラオケ大会が5月22日、有楽町のスナックで開かれ、これまで最多の44人が参加しました。飲むほどにノドも滑らかに、得意の歌で楽しく過ごしました。

築山地区に特別寄稿

築山地区社会福祉協議会加藤会長をはじめ役員、民生児童委員、町内会長、福祉協力員等の地域の皆様から本会事業運営にご理解とご支援を賜り、誠に感謝申し上げます。

秋田市内に39の地区社協があります。築山地区社協は平成28年には設立60周年を迎えられ、これまで地域住民の支えとなり、先駆的で活発な地域福祉活動に取り組み、秋田市内の模範として、日頃より地域福祉活動へのご尽力に心から敬意を表する次第であります。

地域福祉活動計画の策定

さて、本会では、「誰もが安心して暮らせるまちづくりをみんなの手で」を基本理念とした令和元年度から5年間の「秋田市地域福祉アクションプラン2019」を策定いたしました。

これまで、5年ごとに地域福祉の長期計画として「地域福祉活動計画」を策定しており、秋田市が策定する「地域福祉計画」とはいずれも地域福祉の推進をめざすものとして、地域の福祉課題を共通認識し、目標達成のため相互に連携した計画となっております。しかし、名称が「活動」という文字が入っているか入っていないかの違いであつて、紛らわしいという声も多々ありましたので、このたびの市社協の計画は、「秋田市地域福祉アクションプラン」という名称にさせていただきました。

ました。

社会情勢とアクションプラン

昭和、平成、令和と時代が移り変わる中で少子高齢化社会をはじめ人口減少、地域における連帯感の希薄化、高齢者等の孤立化、貧困と格差、認知症、ダブル介護（育児と親の介護）、80代の問題（80代の親の年金で暮らす50代の引きこもりの子どものいる世帯）など様々な地域の福祉課題は山積してきております。

本会のアクションプランは、「誰も



誰もが役割をもち、支えあう地域福祉をめざして

秋田市社会福祉協議会

常務理事 田口 悟
事務局長

が安心して暮らせるまちづくりをみんなの手で」を基本理念とした地域で支え合う住民の主体的な地域福祉活動の推進と行政をはじめ、社会福祉協議会、民生児童委員、町内会、NPOボランティア、民間企業、関係機関・団体などそれぞれが役割を持ち、お互いに連携を図りながら、地域の福祉課題の解決に取り組んでいこうとするものです。

地域の福祉力と地区社協

「福祉ってなんだろうか」。福祉とは「ふだんのくらしのしあわせ」ではな

いかと思います。みなさんが普段の生活において、悩みがなかったり、健康で自立した生活ができた、隣近所のみなさんと仲良くしていることが何よりの幸せにつながっていくものと思います。

おせっかいのすすめ

「普段の暮らしのしあわせ」とは、住み慣れた地域で安心して暮らせることであると思います。住み慣れた地域ですと暮らし続けたいという思いは誰しもが願っていることであり、その地域で安心・安全に暮らしていくためどのような地域になつてほしいのか、どうしたら住みやすいまちになるのか、住民みずから声を出して行動していかなければならぬ時代になつてきております。

また、地域の福祉課題を解決していくためには、行政だけでなく、住民主体の地域福祉活動が必要であり、その活動は思いやり、支え合い、助け合いのお互い様の心が大切であり、他人事を自分事として捉えて、取り組んでいくことで地域の福祉力が高まっていきます。

地区社協は、「自分たちの地域を住みよいまちにしたい」という思いのもと、向こう三軒両隣、お互い様の精神

近隣や地域の希薄化が進行する中で、地域住民は、一歩も二歩も引かない」という風潮で地域とのかかわりを続けているのではないのでしょうか。おせっかいは元々「じゃばり」、「いらねごどする」、「くされたまぐら」といったイメージですが、今の社会は、一歩二歩前進した少しの「おせっかい」によって、相手の役に立つことができれば、そこには温かい心の交流が生まれ、人間関係を築いていくきっかけとなります。



金照寺山三十三観音 保存ボランティア活動の会

会員 谷地田 華奈子

金照寺山三十三観音保存ボランティアは、金照寺山三十三観音の文化財としての啓蒙活動、保存を目的とし、この趣旨に賛同する人たち7名で、活動をしております。会の発起人、松淵眞洲雄氏が会長となり、毎年6月18日の例祭前に、四恩ノ碑の草刈りや清掃、例祭の準備が主な活動内容です。

この春先から、啓蒙活動として、「観音様のガラス展」を、生涯学習センター、遊学舎、アルヴェNHKホール、なんびあ別館等で開催。懇新報で取り上げられ、さらにNHKでも放映され、多くの方が足を運んで下さいました。

宗派を超えた「寺」の大同団結

昭和10〜12年頃に、秋田市のお寺さんが、宗派を超えて団結し、金照寺山に三十三観音を設立。亡くなられた方々を想う気持ちが集まり、金照寺山がミニ巡礼地となりました。そんな温かな強い思い、願いのこもった山だとして、改めて大切にしていかなければと感じました。

また、三十三観音を知ってもらいたいと展示会を開くにあたり、沢山の方達が協力して下さいました。ガラス彫刻家である「天使の羽音 白鳥祐美子」さんが、ガラスで観音様を表現して下さいました。松淵会長によ



のり面の芝刈りに励むボランティアのメンバー

そして、顧問である萬雄寺の住職さんの支援により、会の活動が継続していただけることを、心より感謝申し上げます。

ボランティアの活動から、人との関わり大切さ、ありがたさを感じます。この温かい人の輪が広がり、更にボランティアの参加が増えることを願っております。

また、昔から関わって、観音様を大切に想っている金照寺山の住民の皆様から、温かいお言葉をいただきました。他にもご協力して下さいました。そして来場いただいた皆様にこの紙面を借りて厚く御礼申し上げます。

資料の提供、金照寺山の観音像や歴史を映した動画には、秋和流大正琴の藤井祥子先生が伴奏、作曲。ナレーションを新山さやかさんが協力して下さいました。

また、昔から関わって、観音様を大切に想っている金照寺山の住民の皆様から、温かいお言葉をいただきました。

和崎ハル顕彰碑 檜山

婦人解放運動に賭けた熱情



金照寺山に立つ顕彰碑

檜山の金照寺山に、高さ3メートルほどの顕彰碑がひっそりと立っている。正面には「秋田女性の母 和崎ハルさん」と力強い碑文が彫られている。

本県選出の女性の衆議院議員は和崎氏が初。太平洋戦後（昭和21年）、秋田県第一区で最高票を得て当選、大いに活躍したが、同27年体調を崩し、長男の住む大阪で没した。享年68歳。

顕彰碑は亡くなる前年の11月、彼女の功労を讃えて出生地の檜山に建立された。除幕式は多くの祝辞を受け盛大に行われた。

碑文は和崎氏と共に女性の参政権獲得を目指して活動した市川房枝氏が揮毫した。和崎氏の顕彰式の除幕式には、大阪から本人が病軀を押して駆け付け、謙虚で短い挨拶ながら会場に深い感動を与えたという。

和崎氏は明治18年、檜山の栗谷信幸氏（秋田藩の士族）の三女として出生、秋田高等女学校（現・秋田北高）を卒業して上京。五人の子を授かったが、夫（和崎豊之氏は職業軍人）と死別し秋田に戻って、秋田県初といわれる美容院を開いた。

その生涯は、公娼廃止（昭和8年、秋田県が全国にさきがけて廃娼県となる）や、婦人参政権獲得運動に捧げられた。

かくて戦後、一年足らずで女性に参政権を与えられると、昭和21年初の衆議院選挙では、十万二百四十七票を集め、トップ当選を果たしたのである。

因みに、本県選出の女性国会議員は、和崎氏の後、本年まで二人しか誕生していない。